

第53回横浜市地域まちづくり推進委員会会議録	
日 時	令和4年3月1日（火）14時00分から15時45分まで
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7
出席者	<p>【委員】 名和田委員長、室田副委員長、大野委員、片岡委員、杉崎委員、関口委員、高橋委員、三輪委員</p> <p>【幹事】 河岸政策調整部長（環境創造局）、藤澤副区長（栄区）</p> <p>【臨時幹事】 寒河江副区長（神奈川区）、橋本副区長（磯子区）、大内土木事務所長（磯子区）</p> <p>【事務局】 榊原部長、赤羽課長、萩原担当課長、武智担当係長</p>
欠席者	村上地域支援部長（市民局）、山口企画部長（建築局）
開催形態	公開（傍聴2人）＜リモート開催＞
議 事	<p>(1) 地域まちづくりプラン・地域まちづくりルール認定の変更（神奈川区） ＜ルール＞「六角橋商店街地区まちづくりルール(全体区域)」 ＜プラン＞「六角橋商店街地区地域まちづくりプラン」</p> <p>(2) 地域まちづくり組織・地域まちづくりプランの認定（磯子区） ＜組織＞「氷取沢防災まちづくりの会」 ＜プラン＞「氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン」</p>
報 告	<p>(1) 地域福祉保健計画と連携したモデル地区の進捗状況</p> <p>(2) ヨコハマ市民まち普請事業の進捗状況</p> <p>(3) 第10回横浜・人・まち・デザイン賞の選考状況</p> <p>(4) 地域まちづくりグループの登録数等</p>
決定事項	<p>【議事1】 「六角橋商店街地区まちづくりルール(全体区域)」の地域まちづくりルール認定の変更及び「六角橋商店街地区地域まちづくりプラン」の地域まちづくりプラン認定の変更を「了承」する。</p> <p>【議事2】 「氷取沢防災まちづくりの会」の地域まちづくり組織認定及び「氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン」の地域まちづくりプラン認定を「了承」する。</p>
<p>【議事1】 地域まちづくりルール・地域まちづくりプラン認定の変更（神奈川区） 地域）資料説明 地域まちづくり組織の代表者及び役員1名、計2名が説明を行った。</p> <p>（神奈川県役所） 六角橋の皆様、ありがとうございます。市が令和3年度に制定した建て替え基準を反映しつつ、これからの六角橋を見据えた内容。YouTubeやDVDを利用して説明会などを実施し、丁寧に地域の合意形成を進められたと聞いている。</p> <p>＜質疑・意見交換＞ （関口委員） 地域への説明として、YouTubeやDVDでの発信が効果的でとてもよいと思った。どれぐらいの方が視聴したか。また、効果はあったか。</p> <p>（地域） Youtubeによる説明の再生回数については、市の建て替え基準の説明を地権者向けで再生回数60回、テナント向けで50回。プラン・ルールの変更説明（全対象向け）では60回。YouTubeで見ているときは家族で見たとのご意見をいただいている。家族で視聴が可能になったことが理解度を深めたのではないかと。アクセス解析によると、動画の視聴は途中で止めず、最後まで見た人が多いようだ。</p>	

(大野委員) 商店街には住んでいる方は多いのか。

(地域) 住んでいる方はいるが、商店街外から通う方のほうが多い。

(大野委員) 若い人向けの商店も多いと感じている。

(地域) 1店舗のサイズが小さいため、例えば、インターネットで商売をしていた若い個人等がリアルな店舗で起業しやすくなっている。

(大野委員) そういうところがまちづくりの魅力になっていると思う。

(地域) まちのレトロ感、下町感などが面白い興味深いと若い方も魅力を感じてくれている。

(大野委員) 新しい入居者・出店者にまちが求める建築的な基準や景観の基準等はあるか。

(地域) レトロモデル作法集で、お店の外観など統一感を求めているモデル例は提示しているが、特に排除するルールは設けていない。しかし仲見世の通路も狭く、一定の広さを求めるチェーン店は入れないのが実情。商店街が所有する建物もあるので、これから出店する店舗の業種をコントロールすること等はできるかもしれない。

(杉崎委員) 今回の変更は、市の建て替え基準が変更されたから、プラン及びルール認定の変更をするのか。

(地域) 一つの目的は市の建て替え基準にプラン・ルールを合わせること。また、今までのプラン及びルールは建物の保全が前提だが、変更した後は、昔懐かしいスケール感を残しつつ、新しい建物は現代的なかたちを残してもよいのではという考えで、地域のこれまでの検討を反映させたものになっている。

(杉崎委員) 合意形成などの際に、市側からの建て替え基準に関し説明する場面は多かったのか。

(地域) 配布したDVDは、建て替え基準について30分中10分で横浜市が説明し、これまでの経緯や現状は商店街が説明。アーケード調査の結果についても地域に丁寧に説明し、現状の危機感を共有したことで、以前のプラン・ルール的前提であるアーケード存続についてのみの考え方や意見ではなくなった。

(片岡委員) コーディネーターとして、地域に参加している。今回の変更は、基準の変更により改訂された形だが、それ以前に「商店街の建て替えできない現状をなんとかしたい」という気持ちが地域にあり、そこから市の基準の変更に繋がった経緯がある。

(名和田委員長) 地域の要望に市が寄り添った形なのか。

(地域) 現行の制度だと建て替えできず、危険なままの空地になる問題がまちにはあった。今回策定された基準はとてもありがたい。

(防災まちづくり推進課) 平成23年の火災直後は、アーケードを残す前提で建て替えを考えていたが、地域の費用負担などを考慮しながら、今後のまちづくりについて地域と市と一緒に検討を進めた。

(室田委員) アーケードは良いものだが、火災等による危険性も理解できる。認定後の建て替えは、徐々に進むのか。それにかかる時間の見通しはどのくらいか。地元の合意について回答者が半数程度だが、回答していない方の反応は。

(地域) 合意形成の際に、まん延防止重点措置により、飲食店が入るテナントが休業していたため、アンケートを回収することができなかった事情がある。地権者については、正式に認定が変更されて、具体的な検討が進んだ後に回答を希望している方もいる。土地の有効活用につながる内容で地域の中では歓迎の意見もある。建て替えについては、合意形成ができた街区ごとに進めていく予定。店舗同士の共同化についても、話がまとまらない場合は、個別改修を検討していく。これから街区ごとの検討を進めていく。

(防災まちづくり推進課) 地権者に個別でヒアリングも行っている。

(室田委員) 街区ごとに進めていくことは理解できた。建て替えしないところはどうなるのか。

(地域) 資金の問題などで建て替えが進まないこともあり得る。土地と建物で複数の地権者がいる場合などでは、合意形成が難しいと思うが、地域で知恵を絞って今後対応していく。

(防災まちづくり推進課) 地域の9割から賛同を得て、十分な支持がある。都市計画マスタープラン及び個別建て替え基準とも整合している。

(名和田委員長) 六角橋で、今後共同建て替えが進めば、すばらしい事例になるのでは。本認定の変更について承認してよろしいか。

(全委員) 了承。

【議事2】 地域まちづくり組織・地域まちづくりプランの認定（磯子区）

（地域）資料説明

地域まちづくりグループの代表者及び関係者3名、計4名が説明を行った。

（磯子区役所）

氷取沢の皆様、ありがとうございます。区役所としても、今回の提案は感謝している。我々は地域の活動の支援を可能な限り尊重する立場である。防災について自助共助の効果、地域防災拠点との連携に期待している。

（磯子土木事務所）今回のプランで公園などの活用を考えられている。緊急時の活用など可能な範囲で応援していきたい。

<質疑・意見交換>

（名和田委員長）2つほど質問。上笹下連合自治町内会の区域だと思うが、磯子区の地域福祉保健計画の地区別計画を策定する推進母体等と連携しているか。また、防災がテーマだと女性の参加が少ない場合があるが、貴団体の取組では女性の視点も生かされているのでは。そういう点も含めて、どのように活動で配慮されているのか教えてほしい。

（地域）今のところは、取組の範囲を氷取沢地域内で限定している。女性の視点については、確かに企画したイベントの参加者で女性が多い。今後も女性の力は必要になると考える。「女性防災クラブ平塚パワー」を招いて開催した講習会にも、地域の女性参加者が多かった。バスタオルを使った防災頭巾、段ボールを使ったトイレなど教わった。会の構成は4自治会の理事が入っているので男性が多いが、開催した「減災を学ぼう会」では女性の参加者が多い。

（地域）団体のメンバーに自治会連合、社会福祉協議会の方もいるので、今後連携しようと考えている。農家の協力を得て収穫祭なども実施するため、子どもの参加も多い。

（室田委員）4自治会で取り組まれているが、共同住宅と戸建て等異なる住宅の住民が混在している。建物に設置されるエレベーターの状況が異なる等それぞれ違う課題などあると思う。そのような中で取組での苦労はあったのか。

（地域）どの団地でも共通して、エレベーターが付いていない。基本的には発災時は、各町内会が該当のエリアを支援するが、復旧にある程度時間がかかった場合は、各地域の状況を生かして助け合う。

（室田委員）高齢者の支援についてなど、きめ細やかな活動を今後も期待している。

（地域）今後は、実際に災害が起こったときの体制づくりなどを検討している。

（三輪委員）アンケートの集計結果を確認して、若い人の考えが今後ヒアリングなどで得られるとよいと思った。また、子育てサロンなど福祉活動の一環の団体・活動と連携することで、色々な世代の声が聴けるとより発展していくのではと思った。

（地域）始めに実施したアンケートでは若い方の意見はなかなか集められなかったが、コロナ禍によるテレワークの影響もあってか、環境が良いことを魅力的に感じた若い世代も住み始めている。意見回収で若い方にも協力していただくなど、少しずつ進めている。取組の中で、新たに地域の憩いの場所をつくりたいと思っている。これについては若い人の意見が出てきている。

（地域）3、4年前から子ども食堂もやっている。その中で防災の勉強も始めている。コロナ禍で中断はしているが、そういった活動も始めている。

（名和田委員長）今後も認定を受けて活動を続けてほしいとの意見も多かった。本地域まちづくり組織及び地域まちづくりプランを認定として了承よろしいか。

（全委員）了承。

【報告1】 地域福祉保健計画と連携したモデル地区の進捗状況

(事務局) 進捗状況の報告。

(名和田委員) 「地域まちづくりと地域福祉保健は別々で活動するもの」という考えがあるが、実際の現場では、地域活動で連携できればより良くなるという声もある。今回のような活動をどんどん進められると良い。

【報告2】 ヨコハマ市民まち普請事業の進捗状況

(事務局) 資料配付のみ。

(杉崎委員) 今年度の事業取組から出た課題について、部会を追加開始して検討することとしている。特に、過去助成を受けた団体の2回目の応募に対する審査が議論となったため、来年度の応募要件を見直すことも検討することとなっている。

【報告3】 第10回横浜・人・まち・デザイン賞の選考状況

(事務局) 資料配付のみ。

(室田委員) 18件の応募があった。素敵な活動が多くあり、選考することが難しかった。

【報告4】 地域まちづくりグループの登録数等

(事務局) 資料配付のみ。

以上